

マージン改善に向けて：原材料価格の高騰と当社対応について

ウクライナ情勢などを背景として原材料価格が高騰・高止まりする中、中計3年目の営業利益目標1,400億円の達成に向けて、戦略的な製品値上げと販管費の継続的な見直しを実施しており、マージン改善の効果は着実に表れつつあります。

原材料価格の状況

国際物流の混乱継続や散発的なプラントトラブルに加え、英米のロシア産原油の禁輸措置により原油・ナフサが上昇しており、2022年上期にかけて、原材料価格は一段と上昇しました。

原油・ナフサ	英米のロシア産原油の禁輸措置により、現在の原油・ナフサ相場は、2022年年初の想定を超えて大幅に上昇しており、現時点で短期間で下落する可能性は低いと想定
酸化チタン	鉱石価格の継続的上昇や物流混乱、需給バランスの不均衡などを背景に価格が一段と上昇しており、ウクライナ情勢の影響により、価格上昇に拍車がかかる可能性も想定
中国	電力制限に加え、生産規制やゼロコロナ規制により、原材料の生産から物流網への影響が継続

当社対応状況（～2022年第2四半期まで）

原材料価格の高騰が全地域の事業に影響する中、販売価格の値上げや原材料の代替品の調達、販管費の見直しなどを継続的に実施しています。

製品価格の値上げ	建築用は2021年第2四半期以降、主要地域で販売価格の値上げを継続的に実施。自動車用・工業用も、顧客との関係性を維持しながら価格交渉を継続
代替品の調達	グローバル各地のR&D・生産部門が連携し、情報やノウハウを共有しながら、代替品調達を検討中
販管費の見直し	グローバル各地で販管費の見直しを進行中。2021年度の連結販管費率は、前年に比べて1pt改善(30.5%→29.5%)

主要地域での製品値上げの実施状況（建築用）

● 全製品の価格改定 ▲ 一部製品の価格改定



マージン改善に向けた道筋

2022年2月に発表した2022年度ガイダンスでは、国産ナフサの市場価格は上期にかけて引き続き6万円以上で推移する想定であったものの、英米のロシア産原油の禁輸措置による原油・ナフサ上昇により、原材料価格は当社想定を超えて上昇しています。当社は引き続き原材料価格の上昇に見合う販売価格の値上げを継続することで、営業利益率は今後も緩やかに改善すると想定しています。原油・ナフサ相場などの動向次第では改善が遅れる可能性もありますが、中長期的には、販売価格の継続的な値上げにより、従来のマージン水準への回復は十分に可能と見込んでいます。

原材料価格と営業利益率の推移

